

# 2026 年度版 活動報告書

2025 年 4 月～2026 年 3 月

一般財団法人  
再工不協同基金



Instagram

# ごあいさつ



再エネ協同基金は「市民生活協同組合ならコープ」が設立母体の市民運動組織であり、生活協同組合は、世界中にひろがる相互扶助、共助の組織です。脱炭素社会づくりが地球市民の責務となった今、地球環境を保全し、生物多様性を保持して次世代に引き継ぐ活動を広めることは、協同組織に期待される役割でしょう。再エネ協同基金としても、奈良県を更に住みやすく、安心して暮らせる地域へと発展させるため、活動を進めることが重要になってきました。温暖化による気候変動で災害が多発し、地球とりわけ海洋の汚染が深刻化しています。わたしたちの想像を超えて環境悪化が進行する中、くらしを見直し、一人ひとりが行動をかえることが必要になっています。皆様のご理解とご参加をよろしくお願いいたします。理事長 森 宏之



2025年、史上3位の高温が記録され、地球システムの破壊に至る気候危機が迫っていることを実感しました。私たちはこの危機防止に向けて「2030年までに再エネを23年時の3倍にする」という国際合意に向けて取り組み、CO<sub>2</sub>を急減させねばなりません。しかし、世界で発電の再エネ比率が100%の国が6ヶ国、50%以上が73ヶ国もある中、日本は22%で123位です。世界での再エネ発電設備の年間導入量は急増していますが、日本はむしろ低下しています。すでに、太陽光発電等は最も安価な発電手段となり、電力は買うより自給する方が有利な時代に入りました。日本も、地域資源である再エネを市民、地域の力を合わせて普及させ、地域を自立的に発展させながらCO<sub>2</sub>も削減し、国際社会や未来世代への責務を果たしていきたいものです。 評議員長 和田 武

## 2025年度 会員数・会費の使いみち

個人会員 852人  
法人会員 31団体

2025年度助成事業助成額 1,951,000円

## 活動の仕組み

項目	申請件数	申請件数	助成金額
太陽熱温水器	50,000		0
ペレットストーブ・薪ストーブ	50,000	0	0
太陽光発電 1kWあたり	10,000	18	756,000
おひさまエコキュート		0	0
住宅用定置型蓄電: 1kWあたり	10,000	28	1,080,000
ポータブルバッテリー (1kW以上)	10,000	1	10,000
ポータブルバッテリー (1kW未満)+ソーラーパネル			
断熱窓		2	70,000
冷蔵庫、エアコンの買替	5,000	1	5,000
節水型トイレ 一台につき	10,000	0	0
電動アシスト付き自転車	10,000	0	0
発電事業	50,000	0	0
EV購入	50,000	0	0
V2H導入	100,000	0	0
調査研究・学習活動	50,000	1	30,000
合計		51	1,951,000



# 2025年度 学習活動（参加人数のべ310人）

14 講座を開催し、多くの方にご参加いただきました。「野外でエコクッキング講座『野草を食べてみよう』」では、カラスノエンドウやスギナといった身近な野草を天ぷらやピザ、パスタ、お茶にいただき、地球にも、お財布にも、身体にも優しいを体感しました。「ソーラークッカーづくり」では、温度を可視化できる不思議なカメラが大活躍。みんな太陽の力で熱くなるクッカーの写真を興味深そうに覗いていました。講演会「海から見た気候危機」では奈良教育大学附属中学校のユネスコクラブさんとコラボし、若い力を感じることができました。「曾爾村の自然満喫体験」では『菌ちゃん農法』と呼ばれる自然農法について学び、捨ててしまう玉ねぎの皮で草木染をすることで、自然と共に生きるエコライフについて学びました。

2026年度も、様々な役立つエコ講座をお届けしていきます。是非ご参加ください。



5/17 うだ夢創の里 野外料理



6/14 春日山原始林散歩



8/2 ソーラークッカーづくり



7/20 里山の自然観察



9/26 鍋帽子®を使った保温調理



7/6 ソーラーランタン作り



10/18 EV講演会・試乗会・陽楽の森散歩



9/15 講演会「海から見た気候危機」  
With ユネスコクラブ



11/7 つくばね発電所見学



10/24 曾爾村自然満喫体験



2/12 火を囲むカフェ

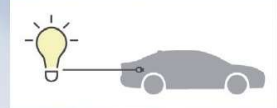


2/14 薪割体験

# 電動車と創るこれからの暮らし

カーボンニュートラル社会の実現が求められる中、電動車（BEV・PHEV・HEV・FCEV等）の利用は環境負荷を抑えるための重要な選択肢となっています。走行時に発生するCO<sub>2</sub>排出量をゼロまたは大幅に低減することはもちろん、アイドリングのない静かな走りは地域の生活環境にも寄与、街並みや自然と調和した移動を可能にします。加えてBEVやPHEVは再生可能エネルギーの利用拡大とも非常に相性が良く、再エネ由来の電力で走ることにより日常の移動そのものが環境貢献、カーボンニュートラル実現につながるといった点も大きな魅力です。

さらに、電動車に備わる外部給電機能（※1）は、環境意識と防災意識の双方を高める存在です。災害等による停電発生時にいつものクルマが電源になるということは万一の備えとして大きな安心につながります。エネルギーを“つくる・ためる・つかう”という視点で生活を捉え直すきっかけにもなり、持続可能な暮らしづくりに向けた価値はますます高まっています。



一方で、電動車ならではの走りの魅力も見逃せません。モーター走行特有の静粛性とスムーズかつトルクフルな立ち上がりは、日常の移動をより快適にしてくれます。また低重心化による安定した走りは、安心感のあるドライビングをサポートします。このような“上質な移動体験”を提供する点で、電動車は生活に馴染みながら豊かさを広げてくれる存在です。

電動車の導入を後押しする制度も充実しており、国のクリーンエネルギー自動車導入補助金のほか、自治体や各種団体等による各種補助制度など、私たちが環境に優しい選択をしやすい環境が整っています（※2）。

電動車は、これからの時代に向けた環境配慮・安心・快適を提供する、新しい暮らしのパートナーです。環境負荷を抑えながら、地域とともに豊かに暮らす未来づくりに欠かせない存在となっていくでしょう。

※1 外部給電機能の有無や給電能力は車種により異なります。

※2 補助制度の内容は地域や年度によって異なります。ご検討時には最新の情報をご確認ください。



## BEV（電気自動車）

エンジンは積んでおらずモーターのみで駆動。走行中にはCO<sub>2</sub>を直接排出せずに走行することが可能。



## PHEV（プラグインハイブリッド車）

エンジンとモーターで駆動。より大きなバッテリーを積むことで、モーターのみで走行できる距離長く、バッテリーに直接充電することも可能に。近距離移動ではBEVと同様にガソリンを使わず、CO<sub>2</sub>を排出せずに電気のみで走行可能に。



## HEV（ハイブリッド車）

エンジンとモーターの2つの駆動方式を効果的に使い分けることで低燃費を実現。CO<sub>2</sub>の排出を抑えられます。



## FCEV（燃料電池自動車）

エンジンは積まず、充填した水素と酸素の化学反応で発電し、モーターで駆動。走行中にはCO<sub>2</sub>を排出せず（水だけを排出）に走行することが可能。

※画像はイメージです。

※再エネふれんず「トヨタユナイテッド(株)」様から寄稿いただきました

## ～賛助会員（再エネふれんず）新規、継続会員募集～

再生可能エネルギーや省エネルギーを推進する仲間、再エネふれんずを募集しています。

年会費 1口1,000円（個人会員1口以上・法人会員（非営利法人を除く）10口以上）

再エネふれんずの方は助成金の給付のほか、学習企画参加費の半額補助（上限千円）が受けられます。

新規加入をご希望の方は下記2次元コードのグーグルフォームにて必要事項を入力し、口座に年会費をお振込みください。

継続の方も年会費のお振込みをお願いします。ならコープ宅配をご利用の方は注文番号151874に「1」とご記入いただくことでもお支払いいただけます。（反映に時間がかかるため、継続の会員様向け）お振込みの場合は下記口座まで。

南都銀行 南支店 普通 2175971 ザイダンホウジンサイエネキヨウドウキキン

ゆうちょ銀行 店舗番号0九九 当座 0236486 ザイ)サイエネキヨウドウキキン

〒630-8503 奈良県奈良市恋の窪一丁目2番2号（ならコープ本店内）

Tel 0742-33-9528 email [saiene@kyodokikin.com](mailto:saiene@kyodokikin.com)

